

# 令和元年6月議会 宇都宮市議会定例会報告

一般質問  
一問一答方式

今井 恭男



### 質問項目

- 1 中心市街地の活性化について
- 2 吉田副市長退任にあたり、在任中と本市の将来への所見について
- 3 スマートシティ構想とモデル事業の取り組みについて
- 4 姿川・田川洪水ハザードマップから見る地域防災計画について
  - 1) ハザードマップ改定に伴う各種の浸水被害対策の見直しとその対応について
  - 2) 取り組みがもたらす社会的変化、市民生活の変化に地域の防災施策に対する関係条例や規則の見直しについて
  - 3) 逃げ遅れ防止の「避難スイッチ」の導入について
- 5 高齢者及び超高齢社会への対応について
- 6 介護保険制度と地域包括センターの業務課題について
- 7 教育課題に対する新教育長の所信について

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 4 姿川・田川洪水ハザードマップから見る地域防災計画について

**Q** 水防法の改正に伴い、1,000年に1回程度を超える最大規模の降雨量に見直され、姿川・田川洪水ハザードマップが本年1月に策定された。現在、浸水想定区域の住民にはハザードマップやチラシが配布されたが、共助・公助の体制を早急に構築し地域防災計画に反映する必要がある。必要な諸課題の具体的な見直し対応について伺う。

**A** 避難所における収容能力の公表や避難分散と避難ルートの周知については、各地域の最寄りの避難所や安全な避難ルートの事前ルート確認について周知啓発を行う。防災倉庫の配置の見直しについては、物資の配置の見直しや近隣の防災拠点に移転するなどの対応を進める。地域情報の収集の拠点に位置付けている、地区市民センターは浸水が想定される場合、速やかに近隣に拠点を移転するなど、情報収集・伝達などの機能継続に向けた具体的な検討を進める。

災害時要援護者支援制度については、要援護者支援法の共有がなされていない課題がみられるため、今回改定を行ったマニュアルを活用し、制度のさらなる理解や安定運用に取り組む。

姿川・田川洪水ハザードマップに対する市内の共有化と関連条例の見直しについては、より一層の情報共有化を図るとともに、要綱や要領、個別計画等

の見直しを検討する。

#### 5 高齢者及び超高齢社会への対応について

**Q** 「80」代の親が「50」代のひきこもりの子どもの生活を支えるという問題の「8050問題」。親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが目立ちはじめ、将来の人生に対する悲観を理由とされる事件が、直近でも相次いで起きている。

ひきこもりは青少年の問題という制度のハザマでだれにも相談できず、社会的に孤立している問題について、極めて迅速な対応が求められているが、本市における8050問題を抱える世帯の想定数についてと、これらに対する専門部署の必要性について見解を伺う。

**A** 内閣府が行った全国の40歳から64歳までの「ひきこもり」状態にある人の調査結果を本市の人口に当てはめると、2,600人と推計されるが、「8050」問題を抱える世帯数は把握していない。専門部署の必要性については、介護、生活困窮など家族が抱える課題が複合化していることから、課題に関係する複数の部局の連携支援が必要と認識している。地域包括支援センターが介護サービスなどの導入をきっかけに存在を把握し、支援が必要な場合には「生活困窮者自立支援制度」における「就労準備支援事業」に繋げるなど適切に対応していく。複合的な課題を抱える家族に対して部局が連携して、きめ細かに支援していく。

一般質問  
一括質問方式

高橋 英樹



### 質問項目

- 1 交通安全について
  - 1) 交差点の安全対策について
  - 2) 高齢ドライバーの交通事故撲滅に向けた取り組みについて
- 2 LRTについて
- 3 大谷地域の振興について
- 4 スマートモビリティを活用したまちづくりについて
- 5 JR宇都宮駅東口に隣接する繁華街における治安の確保と景観の形成について
- 6 保育行政について
  - 1) 幼児教育無償化への対応について

- 2) 保育士等の育成・確保に向けた取り組みについて
- 7 自転車のまち宇都宮の推進について
- 8 冠水・溢水対策について

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 1 交通安全について

##### 2) 高齢ドライバーの交通事故撲滅に向けた取り組みについて

**Q** 高齢ドライバーによる交通事故や逆走のニュースが連日のように報道されている。先日、池袋において高齢者が運転する車が暴走し、自転車に乗っていた母子が亡くなるという悲惨な事故が発生した。今後このような悲しい事故を繰り返さないため、速やかな対策が求められている。

現在、高齢ドライバーの交通事故防止に効果が見込まれる「自動ブレーキ」や「ペダル踏み間違い時、加速抑制装置」などが搭載された先進安全自動車(ASV)が各自動車メーカーで実用化されている。ASVはどうしても価格的に割高になることから、2016年に香川県が初めて高齢者を対象にASVの購入補助制度を導入して以降、多くの自治体で同様の事業を展開している。また、最近は後付けできる急

発進防止装置が販売されており、東京都においてはこれらの購入費用の補助について検討を始めた。二輪車についても交通安全対策としてABS(アンチロックブレーキシステム)の装備が義務付けられており、普及促進を図る必要がある。

このように、本市における高齢ドライバーの交通事故撲滅に向けた取り組みとして、ASVや交通事故を抑制する安全装置を普及するための助成制度を導入すべきと考えるが、見解を伺う。

**A** ASVや交通事故を抑制する安全装備については、交通事故防止や被害軽減に一定の効果があると認識していることから、本市においてもASVの普及促進に向けた周知啓発に取り組んでいる。

現在、国においては安全運転サポート車のみを運転できるようにする高齢ドライバー向けの新たな免許制度の創設などに取り組んでいる。本市においても、国の動向などを踏まえながら高齢者が安全・安心に移動できる環境を整えるため、交通安全教室の開催などによる高齢者の意識向上や誰もが移動しやすい環境づくり、議員ご提案のサポカーの普及促進をはじめとする安全運転に対する支援など、高齢ドライバーの交通安全対策について、様々な視点から検討を進めていく。

一般質問  
一括質問方式

宇梶 哲



### 質問項目

- 1 中心市街地の活性化について
- 2 交通環境の整備について
  - 1) 駅のバリアフリー化について
  - 2) 交通弱者の対応について
- 3 ハラスメントへの対応について
- 4 介護サービスと介護従事者の人材確保について
- 5 子ども・子育て支援の取り組みと保育士の人材確保について
- 6 外国人労働者の受け入れ体制について

#### 7 投票率の向上と期日前投票所について

### 質問及び答弁(抜粋)

#### 5 子ども・子育て支援の取り組みと保育士の人材確保について

##### 1) 保育士の人材確保について

**Q** 幼児教育・保育の無償化による需要の拡大、女性の就労率80%を目指すなど、国の施策に伴い、幼児教育・保育に必要な人材が、現在以上に必要になることから、保育士の人材確保の取り組みが課題となっている。

このような中、栃木県と共同で設置した「とちぎ保育士・保育所支援センター」においては、潜在保育士を対象に、基礎研修会や、体験研修会など、各種研修会を開催するほか、再就職のための「保育士就職準備金貸付事業」や、保育士を目指す学生への「修学資金貸付事業」など、各種貸付金制度があるが、保育士確保に向けて、これからの取り組みを幅広く周知徹底することが、重要であると考えている。

行政が人材バンクの役割をさらに果たせれば、ブ

ランクのある潜在保育士の方も、安心して保育士として復帰することができるし、保育所も安心して雇用することができ、雇用の創出にもつながり、さらに、保護者の方も、安心して預けることができるようになるかと考える。そこで、とちぎ保育士・保育所支援センターをさらに利用する方が増えるよう、周知徹底をはかる必要があるかと考えるが、どのように取り組まれるか伺う。

**A** 県と共同で潜在保育士の再就職支援などを目的として「とちぎ保育士・保育所支援センター」を設置し、人材バンクを設け、新たに就労を希望する潜在保育士と保育所事業者とのマッチングのほか就労に向けた学び直しのための、研修や体験会の開催や貸付事業など実施し、これまでに136名の方が保育所への就労に繋がっている。

今後、県外からの転入者など、未登録の有資格者に、自治会回覧やショッピングモールにおける広報活動により、周知を行い、センターにおける人材バンクに登録して頂けるよう、あらゆる機会を通じて周知活動の強化に努めながら保育士の人材確保に取り組んでいく。

私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回9月議会質問予定者  
福田智恵・中塚英範・郷間康久